

## 2 女性獣医師がより活躍できる環境づくりの推進

### (1) 女性獣医師の活躍促進のための理解醸成

#### ア 雇用者のコンプライアンス意識向上

日本獣医師会獣医学術学会年次大会の会場において、主に雇用者を対象とした女性獣医師等の就業環境に対する理解を醸成するための講習会として、平成27年度は秋田県でシンポジウム「女性獣医師の就業継続とキャリアアップを目指して－支援のためのプラットフォームの構築－」を、平成28年度は石川県でシンポジウム「女性獣医師の就業支援の取組み」を開催

し、労務管理関係制度の説明や優良事例の紹介等を実施した。

地方獣医師会における取り組みの実態を把握するため、①女性獣医師支援の取り組み状況、②女性役員を増やす検討、③本会への意見等について、アンケート調査を実施し、その結果の概要を平成 28 年度のシンポジウムで紹介した。

## ○ 今後の課題

理解醸成のための労務管理関係制度の説明や優良事例の紹介等は、繰り返し実施することが必要である。

雇用者のコンプライアンス意識向上のための労働関係法令、保険制度等に関する手引書については、引き続き作成に向けた検討が必要であり、特に、公務員や産業動物診療分野（NOSAI）に比べて関係制度の整備が進んでいない小動物診療分野に対応した手引書の作成等を優先する必要がある。内閣府や自治体等が作成している資料、優良事例等を参考に検討する。

平成 28 年度に実施した地方獣医師会へのアンケート調査は、結果の公表を前提にしていなかったが、他の地方獣医師会での取り組みを知りたいとの要望、メディアからの情報提供の要請等があったため、アンケート調査結果のフィードバックや公表について、対応を工夫して実施する。

## イ 獣医学生に対する就業教育

女性獣医師の就業を支援するための獣医学生向けセミナーについては、理解が得られた大学において、平成 27 年度は 7 大学で開催し、475 人が参加、平成 28 年度は 13 大学で 14 回開催し、487 人が参加した。

参加した学生（男女とも）にアンケートを依頼し、意見や感想を聞いて、今後の参考資料とした。

## ○ 今後の課題

セミナーが、授業の一環としての開催か、放課後の自由参加での開催かによって、参加人数に大きな差が生じた。授業か放課後かについては、大学側の都合によるため、放課後開催であってもより関心を持ってもらうための工夫や大学との相談が必要である。

講師は委員を中心として依頼したため、産業動物診療分野と小動物診療分野は各 1 名にお願いすることとなり負担が大きかった。講師の候補者を幅広く検討する必要がある。

学生へのアンケートについて、性別の記入や回答の選択肢等に関して様々

な意見があり、設問や選択肢を見直す検討が必要である。

「女性支援」という言い方に対し、参加した学生から批判的な意見があった。学生の間は男女の役割分担意識は固定化されておらず、就職後も同等に役割を果たすつもりでいる学生が敏感になる気持ちは理解できるが、一方で、妊娠・出産等女性特有のライフイベントを経験する一定期間は、配慮や支援を受けなければ就業を続けられない、ということも理解しておいてもらう必要がある。その上で、「女性支援」ではなく、「環境を整える」等配慮した表現を用いるよう検討する必要がある。

学生向けセミナーのアンケートの選択肢等についても、同様な配慮が必要である。

## **(2) 仕事を続けやすい環境づくり**

### **ア 勤務形態の多様化の促進**

(1) アに既述した日本獣医師会獣医学術学会年次大会(秋田、石川)の会場で開催したシンポジウムにおいて、多様な働き方、体験事例の紹介、意見交換等を実施した。

(1) イに既述した獣医学生向けセミナーにおいても、多様な働き方、ワーク・ライフ・バランスを大切にした働き方等の事例を紹介した。

また、「女性獣医師応援ポータルサイト」に人材募集ページを設け、日本獣医師会ホームページの求人情報を改良し、地域、職種、職域、雇用形態、休日等の条件検索を可能とした。

### **○ 今後の課題**

短時間勤務等多様な働き方の促進のためには、受け入れる雇用者側の対応を促すことが必要である。特に、小動物診療分野の短時間勤務等のワークシェアリングについては、地域の獣医師会において情報交換をしやすい環境づくりを広げていくことが望ましい。獣医師に限らず、スタッフである動物看護職についても同様である。良い取り組みがあれば積極的に紹介していく。

### **イ 出産休暇・育児休暇が取りやすい環境の整備等**

出産休暇・育児休暇等の制度を職場への支障や気兼ねなく利用できるよう、いずれの職域においても必要性が強く指摘されている代替獣医師の確保の円滑化のために、獣医師人材バンクの設置について検討した。

人材バンクを設立するには、職業紹介業の許可を得る必要があるため、職業紹介責任者講習会を受講したほか、地方獣医師会、他の組織での取り組み

状況の情報を収集し、検討した。

都道府県単位の公務員獣医師の登録制度はあるが、更新等が適切に行われておらず十分に活用できない例もあるほか、都道府県をまたいだ登録情報の共有が必要であるが実現は難しいとされている。人材バンクを設置した地方獣医師会の取り組み事例は、公務員獣医師と産業動物獣医師のみを対象とするものであった。

## ○ 今後の課題

人材バンクを正式に設立するには、職業紹介業の許可を得る必要があるため、慎重に検討を続けることが必要である。

定年退職者に加え、中途退職者、子育てが一段落した女性獣医師、短時間勤務を希望する者等にも、広く登録してもらえる何らかの仕組みを工夫できないか、個別に運用されている既存の人材バンクの有効活用ができないか等の検討を続ける。

子育て中で、フルタイムの就業は無理でも短時間なら勤務を希望する者等と多様な働き方を受け入れる雇用者とのマッチングが進むよう、ホームページの求人情報において、よりきめ細かい条件等の検索ができるよう、掲載時のフォーマットに改良を加える等の工夫が必要である。

## (3) 復職しやすい環境づくり

### ア 女性獣医師等就業支援研修の開催

復職をめざす女性獣医師等を対象として、職場復帰・再就職に必要な最新知識の修得、獣医療技術の向上を目的とした「女性獣医師等就業支援研修」(農林水産省補助事業)を、家畜保健衛生所、動物検疫所、NOSAIの家畜診療施設等のご協力を得て実施した。平成27年度は6カ所で実施し、のべ6人が受講し、平成28年度は8カ所で実施し、のべ9人が受講した。

研修の開催案内、受講者募集は、日本獣医師会ホームページ、日本獣医師会雑誌、全国家畜衛生職員会会報に記事を掲載すること等によって積極的に行った。

平成28年1月7日付け27日獣発第291号「平成27年度獣医療提供体制整備推進総合対策事業のうち『女性獣医師等就業支援研修』への参加協力をお願いについて」及び、平成28年7月28日付け28日獣発第128号「平成28年度獣医療提供体制整備推進総合対策事業のうち『女性獣医師等就業支援研修』への参加協力をお願いについて」により、地方獣医師会宛てに参加者募集を通知した。さらに、農林水産省消費・安全局畜水産安全管理課獣医

事班からも、各都道府県獣医事担当部署に研修について通知された。

## ○ 今後の課題

研修受講希望者をいかに把握し、どのように連絡して研修の開催等の情報を伝えるかが引き続き課題である。

会員の休会・退会について、ある程度状況を把握していると思われる地方獣医師会への協力要請、大学の同窓会誌や関連団体の広報誌等への開催案内の掲載依頼等について、さらに検討する必要がある。

## (4) 情報プラットフォームの構築

女性獣医師等の活躍促進のための幅広い情報を一元的に提供する情報プラットフォームとして「女性獣医師応援ポータルサイト — 女性獣医師の『いきいきと働く』を応援します — 」(URL: <http://nichiju-shien.com/>)を平成28年2月に構築し、ロールモデル、eラーニング教材、求人情報、セミナー・研修関係情報等を紹介しており、順次コンテンツを追加し、内容を充実させるとともに、ポータルサイトの周知、活用促進を図った。

### ア ロールモデル

「女性獣医師応援ポータルサイト」に、平成29年3月31日現在、産業動物診療獣医師9人、家庭動物診療獣医師5人、公務員(行政)獣医師11人、大学・研究・展示施設獣医師3人のロールモデルを掲載している。

ロールモデルは、「委員自身または委員が推薦した獣医師に執筆を依頼して掲載する。」という考え方で掲載した。

## ○ 今後の課題

ロールモデルの掲載は、従来と同じ考え方で、広告・宣伝にならないよう配慮して進める。

産業動物診療分野と公務員分野のロールモデルが多いので、小動物診療分野のロールモデルを充実させるようにする。特に、仕事を苦勞して続けてきた人、仕事と私生活のバランスをうまくとりながら働いている人についても充実させる。

### イ e-ラーニング

関係機関のご協力により得られた既存のコンテンツを含め、「女性獣医師応援ポータルサイト」に、以下の様なeラーニング教材を掲載している。

①平成 26 年度獣医学術学会年次大会（岡山）におけるシンポジウムの動画、②平成 27 年度獣医学術学会年次大会（秋田）におけるシンポジウムの動画、③平成 27 年度及び平成 28 年度学生向けセミナーの動画、④動画「豚コレラ撲滅のために」、⑤「放射線診療技術研修支援システム」、⑥動物医薬品検査所、家畜改良センター、動物衛生研究所、動物検疫所、政府インターネットテレビ等の有用な情報、⑦世界獣医師会（WVA）の生涯研修、⑧獣医師クイズ（仮称）のプレオープン版。

## ○ 今後の課題

講演会や既存データの掲載だけでなく、最後に学習状況が確認できるような新しい e-ラーニング教材の作成が求められている。

e-ラーニング教材は、出産・育児等により学会・セミナー、実習・研修等に参加できない獣医師が、在宅でも学習できるようにすることを目的としており、既存のものであっても、有用な教材を選んで積極的に掲載していくことが必要である。大学が作成した教材の提供についても、引き続き依頼することを検討する。

新しい e-ラーニング教材の一つとして、学習確認機能のある獣医師クイズ（仮称。プレオープン版）を作成し掲載中であるが、名称を再考した上で、早期に本格オープンし、公開されている獣医師国家試験問題を活用して内容の充実を図る必要がある。

世界獣医師会（WVA）の生涯研修の教材には学習確認機能のある教材が多数存在するので、掲載済みの無料コンテンツの利用を促進するための工夫を継続するとともに、有料コンテンツの利用や日本語翻訳の実施等についても検討する。

## ウ 求人情報

（2）アに既述したとおり、「女性獣医師応援ポータルサイト」の人材募集ページから、地域、職種、職域、雇用形態、休日等の条件検索を可能とした。

## ○ 今後の課題

引き続き、求人情報の内容の充実を図る。具体的には、短時間勤務の可否、育児、介護中の女性獣医師の勤務実態等女性の就業環境がよりきめ細かくわかるように、サイト掲載時のフォーマットに改良を加える等の工夫が必要である。

## エ 相談窓口

「女性獣医師応援ポータルサイト」に「相談窓口（お問い合わせ）」欄を設置した。相談件数はまだ少ない。

### ○ 今後の課題

「女性獣医師応援ポータルサイト」の「相談窓口（お問い合わせ）」欄を、より相談しやすいように改良する必要がある。

大学、地方獣医師会等の取り組みを調査し、ポータルサイトにリンクできないか等について検討する。

まだ相談件数が少ないが、委員会の委員を中心に相談員の委嘱を進め、相談を受ける体制を整備していく必要がある。

仕事を続けやすい環境づくりのために、広く導入が進められている「メンター制度」を参考にすることについても検討する必要がある。

## オ 地方獣医師会等の HP とのリンク

平成 29 年 1 月 29 日付け事務連絡「女性獣医師応援ポータルサイトへのリンクについて（依頼）」にて、各地方獣医師会宛てにバナーを添付し、リンクを依頼した。平成 29 年 4 月 23 日現在、55 地方獣医師会のうち 17 地方獣医師会のホームページにリンク・バナーを確認した。

### ○ 今後の課題

地方獣医師会のホームページの中には、サイトの構成上、リンク集の設定や、バナーを直接貼ることが可能な仕様となっていない場合もあるため、引き続き、可能な範囲で協力を依頼する。また、定期的に調査して、リンクの有無の結果を公表することも検討する。

獣医系大学、関連団体等へも「女性獣医師応援ポータルサイト」のリンクについて依頼することを検討し、このサイトがより広く活用されることをめざす。